

平成23年度 学力向上アクションプラン(竹本場小)

1 目 標

- (1) 生きて働く学力を身につけた児童の育成
- (2) 思いやりの心を持ち、態度や行動で表わせる児童の育成
- (3) 命の尊さがわかり、進んで健康や体力づくりに努める児童の育成

2 実践目標

- (1) 小・中連携の推進
- (2) 学力向上の推進
- (3) 地域連携の推進

3 成果目標

- (1) 小中連携の取組の活性化を図り、9カ年のスパンで各教科各領域のゴールの姿を共有化し、基礎的・基本的な学力の定着を推進する。
- (2) 授業規律の確立と意欲を持って授業に真剣に取り組む望ましい学習態度を身につけさせる。
- (3) 保護者との協力・連携により、家庭学習の定着を図る。また、開かれた学校づくりを促進し、地域人材の活用をとおして、地域との連携を充実させ、活気と活力ある学校づくりを推進する。

4 現 状

◎ H23年度 佐賀県学習状況調査(5・6年生)(h23.4.18・19実施)

5年生	評価	国 語	社 会	算 数	理 科
	到達基準に対して	おおむね達成	おおむね達成	おおむね達成	おおむね達成
	県正答率に対して	やや下回る	ほぼ同じ	ほぼ同じ	大きく下回る

6年生	評価	国 語	社 会	算 数	理 科
	到達基準に対して	—	十分達成	—	おおむね達成
	県正答率に対して	大きく上回る	大きく上回る	ほぼ同じ	やや下回る

※1、6年生の国語・算数については、今年度初めての実施であり、到達基準が未設定のため表示していない。

※2、太文字の教科の達成状況に課題がある。

◎ H22年度 唐津地区基礎学力テスト〔第3回〕(全学年)(h23.4.6~12実施)

国 語	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	充分達成	充分達成	充分達成	充分達成	充分達成	充分達成

算 数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	充分達成	充分達成	充分達成	充分達成	達成	達成

5 課題と目標数値

- (1) 佐賀県学習状況調査から

平均正答率は、6年国語・社会では県平均を大きく上回り、5年国語・社会・算数、6年算数では県平均とほぼ同じで、5年・6年ともに理科の正答率が低かった。小5・6年ともに、理科の「知識・理解」を確実にすると同時に、「思考」に力点を置き、正答率+0.2を設定して取り組む必要がある。理科を含め全体的傾向として、「文章を正しく読み取る」「自分の考えを文章で表現する」力を問う問題の正答率が低い。課題について考え、文章表現をさせる等、各教科における言語活動を充実させることが必要である。また、生活の中に読書の習慣を定着させ、語彙を増やす必要がある。

(2) 唐津地区基礎学力テスト

全学年、国語・算数ともに、目標値を達成できている。基本的な内容を確実に定着させるためのドリル学習を今後も続けていく必要がある。

6 アクションプラン

(1) アクションⅠ 「小・中連携の取組と学力向上の推進」

- ① 9年間における各教科・各領域のゴール（中学校3年生）の姿の共有化を図る。
- ② 小学校の授業内容を踏まえた小・中連携の授業づくりを推進する。
 - ア 9年間を見通した年間カリキュラムを作成する。（小・中統一した様式で作成）
 - イ 小・中の「授業の展開」を基本的に統一し、小6から中1への円滑な接続を図ると共に、「ねらいを明確に提示する」「授業の中に意図的に言語活動を位置づける」ことで授業改善を図る。
- ③ 読書習慣を定着させると同時に、言語活動の充実をめざし、児童集会における暗唱（小学校）やスピーチ集会（中学校）への取り組みの改善・充実を図る。
- ④ 基礎・基本の定着を図る。
 - ア 補充学習の充実を図る。

補充学習（朝の時間・放課後）で、児童の自主的な反復ドリル学習（漢字・計算等）を推進し、基礎学力の定着を図る。また、一人ひとりの「伸び」がわかる手だてを工夫し、児童生徒の意欲を高める。
 - イ Q-Uテストを実施し、より活気と活力のある児童間の人間関係づくりを図る。また、小中合同の「生徒理解研修会」を開催し、児童・生徒の理解の共有化を図る。
 - ウ 全国学力・学習状況調査・佐賀県学習状況調査・標準学力調査・基礎学力テスト等を活用し、児童の学力上の課題を解決できるように努める。
- ⑤ 家庭学習の充実を図る。
 - ア 復習や予習に意欲的に取り組めるよう手立てを工夫する。
 - イ 家庭学習の充実に向けた学校の取り組みについて啓発し、理解と協力を求める。

(2) アクションⅡ 「思いやりの心の育成」

- ① 「あいさつ運動」の徹底をする。
 - ア 毎朝、教師・育友会・交通指導員さん等で学校前の横断歩道に立ち、笑顔であいさつを交わし、登校を見守る。
 - イ 職員室出入りの際の「礼儀」を徹底させる。
 - ウ 来校者・地域の方への挨拶の徹底を図る。
- ② 「時間を守る」「正しい言葉遣いをする」などけじめある態度の育成を図る。
 - ア ノーチャイムでの授業を実施し、児童も教師も授業の始め・終わりをを守る。
 - イ 身だしなみをいつもきちんと整える。
 - ウ 言葉遣いに気をつけ、自分の考えをはっきり言える児童の育成に努める。

(3) アクションⅢ 「地域連携の推進」

- ① 規則正しい生活リズムや素直な心を身につけるために、「早寝・早起き・朝ご飯」「笑顔・挨拶・思いやり」について啓発・実践を図る。
- ② 家庭学習の重要性について啓発を行い、学校と協力して、基礎的・基本的な学力の向上に努める。
- ③ 教科・総合的な学習の時間などへの地域人材の活用に努める。